

丸山はるみ いきいき通信 No.7



道政報告
2023年12月号



ホームページ



Facebook



X (Twitter)



Instagram

沖縄の負担軽減ならず「日米共同訓練やめよ！」

繰り返される負担軽減という名の訓練



沖縄の負担軽減との名目で、道内においても繰り返される日米共同訓練。丸山はるみ道議は第三回定例道議会で、強化される訓練と日米同盟一辺倒にやらない外交について、知事の認識を問いました。

対話による緊張緩和
「2国」求めよ！

一時期はキャンプハンセンでは行われてはいたが、なかつた事実を道は把握していなかったことが判明しました。

丸山道議の質問に、道は過去3年間で、沖縄の負担軽減が目的とされる道内での訓練は実弾射撃訓練・千歳基地への訓練移転、オスプレイを使用した日米共同訓練等7件と答えました。

丸山道議が「兵器の種類が大型化、高性能化している。ロケット砲も持ち込まれる事態の常態化を把握しているのか。訓練規模についての検証は行っているのか」とたずね、北海道防衛局から訓練概要の説明を受けているとの答弁にとどまり検証を行っていないとの答弁はありませんでした。丸山道議が指摘した夜間訓練は、移転前の

丸山道議は「負担軽減と言われているが具体的な検証は行われていない。沖縄の負担軽減の理由に日米共同訓練の強化につながる危険性がある。同盟一辺倒ではなく、対話による緊張緩和に力を入れるよう国に求める必要が高まっている」と強く指摘しました。

北海道の課題・切実な要望携え、政府交渉へ

丸山道議は10月17日・18日の2日間、党国会議員事務所が行った政府交渉に参加しました。党国会議員が同席しました。



公共交通に責任を果たせ

丸山道議は、「北海道新幹線札幌延伸に伴う並行在来線のバス転換は、バス運転手不足により見直しが必要」と、並行在来線の存続を求めました。また丸山道議は運賃値上げをしたくてもできないバス事業者

の状況を訴え、補助制度の改善を求めました。

今の健康保険証をなくす必要なし

政府は健康保険証をマイナンバーカードと一体化することで、来年の秋に今の健康保険証をなくすとしています。

しかし、カードを作ることや利用の際の本人確認が難しい人がいること、さらに受診の際は顔認証も暗証番号入力もできないことも想定されるとし、健康保険証は残すべきと訴えました。

「原子力防災総合訓練」を視察



岩内町役場から見える泊原発



放射線汚染チェックを待つ住民

訓練は暴風雨の想定ですが、実際は穏やかな日差しに大量の雪虫が飛ぶ10月25日。まずは共和町に建つ「北海道原子力防災センター」に到着。ここを訪れるのは2回目です。

今回は訓練ということで、実際に職員が入ると少々狭く感じます。

女子トイレにはサニタリーボックスがなく、設置を要請しました。

続く住民訓練では、除染のため手を拭く場合ペーパータオルで一方にぬぐいます。しかし慣れないためいつものようにゴシゴシこすって何度もやり直しの場面も見られました。

訓練の目的は「住民理解の向上」です。

後日、担当課に「細かい点もしっかり検証の必要あり」と伝えました。



医療機関等勤務環境改善は寄付金に頼らず一般財源を充当すべき

第二回定例道議会補正予算で「医療機関勤務環境改善支援事業費」が計上されました。財源は2020年から募集を始めた「エールを北の医療に！」に寄せられた個人・企業・団体からの募金です。この予算で防護服の着脱研修や保健所と医療機関が共同で初動対応訓練を行うための備品の整備を行うといっています。



従事者の意識改革だけの姿勢です。

研修は道の責務！ 一般会計で充当を

丸山道議は「医療機関向けの研修は道として果たすべき責務。本来は一般会計で賄うべきもの。研修費用を寄付金頼みでは継続した研修開催につながるのか」と質問。感染症対策課長は「このたびの研修は全道各地での開催、研修内容を記録し、教材の作成も含んだもの。教材を活用しながら次年度以降の医療機関の自主的研修に有効活用していただく」と答弁。道の財源を充当しての次年度以降の研修会開催について明言を避けました。

勤務環境改善に寄与する活用を

丸山道議は「コロナが5類に移行して以降寄付金は大幅に減少している。寄付金を当て込んだ事業は見通しが立たない心配がある。必要な研修を確実に実施するべく、一般会計からの事業として継続すべき。寄付金は医療従事者の勤務環境が改善されたと効果が目に見える施策へ充当すべきではないか」と質しました。感染症対策課長は「寄付金活用事業は医師会・看護協会等関係者の意見で、今後の新興感染症の発生等に的確に対応できるように学びの場の確保として要請されたもの。医療従事者の支援に当たるとして予算化された」と述べるにとどまりました。丸山道議は「医療従事者から希望が寄せられている実践的な学びの研修はしっかりと財源確保をすべき」と重ねて強調しました。

わたしもあなたも大事なひとり

性教育を人権教育と捉える「包括的性教育」に、小樽でも取り組む人に出会いました。



丸山道議（左）と助産師の澤谷さきこさん（右）

偶然見たチラシに導かれ

11月18日、丸山道議は、とある町内会館に足を運びました。そこで行われたのは「生理のことを知ってみよう」という講座。市内で活動する助産師の澤谷さきこさんが講師です。

丸山道議はこの間、道議会ですりませぬ妊娠出産の相談事業を取り上げる中で、そもそ

も性教育が不十分だと感じるようになりました。これからは、人体や生殖の仕組みだけでなく、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等、幸福など幅広いテーマを含む「包括的性教育」を道内の学校でも取り入れたい、それには何が必要かと模索していました。

和やかで

工夫あふれる講座

講座には小学生の女の子がお母さんと参加しているのが目立ちました。生理のしくみ、月経のとき体で何が起きているのかスライドで説明のあとは、ショーツ代わりの紙おむつに実際の生理用ナプキンを

つけ、経血に見立てた食紅入りの水を垂らしてみるなど、興味を引く工夫がされ、使用済みのナプキンの捨て方など実践的で小学生にもわかりやすい内容となりました。

市民の声届ける議会質問 で要求実現を果たす

講師の澤谷さんからは「性教育に関心がある議員がいて嬉しい」との感想が寄せられ、丸山道議は「小樽市内にこうした活動をしている方がいると知りなんとも心強い。包括的性教育の意義を住民の間に広げ、道内の学校における包括的性教育の実施を求めたいきます」と語りました。

地域こんだん会で議会報告



11月15日、道議会報告に地域のみなさんが集まってくださいました。若年妊娠の相談窓口支援継続の質問等に関心が寄せられるとともに、マイナンバーカードや暮らせる年金、消費税等での話題でも懇談しました。

お困りごと相談お受けします

- 月曜日～金曜日
- 午前9時30分～午後3時30分



丸山はるみ事務所

小樽市稲穂1-12-205
ステーションハイツ

☎64-5591 FAX64-5592